

11/9.6.7

維新、あくまで万博強行

日本維新的會の音喜多駿

政調会長は6日、自身のブ

ログで、2025年開催予定の大坂・関西万博の会場となる大阪湾の人工島・夢洲（ゆめしま）の活用に触れ、「とにかく戻してしまおじむしろ大きな損失となり」と、同万博開催強行を改めて主張しました。

た。

音喜多氏は、21年に開催した東京オリンピックを、批判はあったがインフラ整備や規制改革が進んだないと「成功例」として持ち上げ、ボリス・ジョンソン英首相（当時）が東京都議会で「ロンドンよりはるかに大きな成功」と評した。

万博の会場建設費は当初見込みの一円の範囲から一・九倍の2,200億円に激増した。「歐を学ぶ改革」といふ

た。1年以内に時間が迫ってからが勝負だ」と演説したが、「今でも脳裏に焼き付いてくる」と絶賛。一方、「人々は未知なる木々」「弱い」「マスクがそれを煽（あお）って数字を取る」など、大阪・関西万博開催は「不要だ」が6割を超える世論を敵視しまった。1年以内に時間が迫ってから、維新の馬場伸幸代表は6月の朝日新聞（社説）において、「國民生活が苦しく中でも、反対世論を無視して万博開催に成功例」に挙げ、物価高で国際化が進む姿勢は、「この辺輝かれてます。